LTT Bio-Pharma

株式会社LTTバイオファーマ

第8期 事業報告書

（2009.4.1 ～ 2010.3.31）

TOKYO STOCK EXCHANGE 東証マザーズ上場

（証券コード：4566）

第８期（2010年３月期）の主な事業トピック

2009年

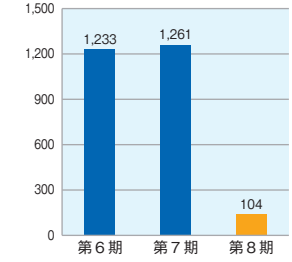
- ４月 北京泰徳製薬が当社筆頭株主となり資本・業務提携契約を締結
- ７月 様々な打錠障害に対応した新たなEIP杵「B-type」販売開始
- ７月 アジア最大の医療関連展示会インターフェックスジャパン出展
- ８月「PC-SOD吸入製剤の実用化開発」がNEDOの助成事業に採択
  （NEDO…独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）
- ８月 中国におけるPC-SODの組成物（物質）特許権を取得
- ８月 四国経済産業局より「中小ものづくり高度化法」に基づく特定研究開発等計画に認定
- ９月 北京泰徳製薬とAS-013のライセンス契約を締結

2010年

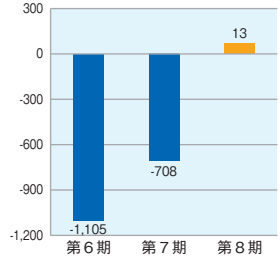
- １月 PC-SODの吸入投与による毒性試験を開始
- １月 旭化成ファーマ㈱とのステルス型ナノ粒子の共同研究開発開始
- １月 製品名称としての「EIP」の商標登録が完了
- ２月 中国でのPC-SOD開発が臨床試験に向け原薬製造全工程をスケールアップ
- ３月 北京泰徳製薬への出資持分を一部売却

注）創薬事業、EIP事業、経営全般で色分け表記しております。

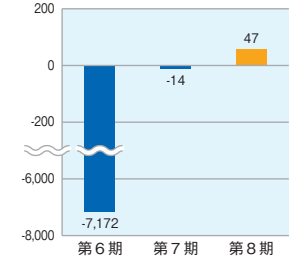
売上高



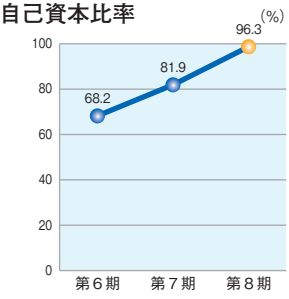
経常利益



当期純利益



自己資本比率



注）第８期の売上高の減少は前期において調剤薬局事業を手がける連結子会社㈱ソーレの全株式を譲渡したためです。

当期は、上場来初の連結損益黒字化を実現、2011年３月期は研究開発への集中投資により早期のステージアップを図って参ります。

Q　第８期（2010年３月期）の総括は？

A　当期は、株主様はじめ関係各位のお陰をもちまして、喫緊の経営課題であった筆頭株主の異動を完了し、信用力回復に大きく寄与いたしました。事業では、PC-SOD吸入製剤の研究がNEDO助成事業に採択され、研究開発が大きく前進したこと、本格展開を開始したEIP事業の受注が下期より順調に推移し、製薬企業を中心に顧客開拓が進むなど今後に繋がる成果を残すことができました。日頃より当社をご支援いただいている皆様に厚く御礼申し上げます。

Q　EIP事業の状況は？

A　上半期を助走期間として、下半期には受注が順調に伸び、成長に向けた手応えを得ています。現在、大手及び中堅の製薬企業を中心に営業が進み、当社製品の導入によって、打錠障害の改善による大幅な生産性の向上等が報告されております。こうして得られた実績やデータによってより戦略的な営業活動が可能になります。
今後は、高収益なEIP杵の売上拡大とともに顧客間の横展開やリピート案件の確保を図ります。
また、試作を進めている製薬企業向け以外の案件についても早期の製品化実現を目指して参ります。

Q　今後のLTTグループの展望は？

代表取締役社長　鈴木　　巌

A　当社グループは、創業以来、経営理念の示すとおり、最先端の技術をもって人類の健康と福祉に貢献することを命題に活動して参りました。今後、PC-SODをはじめとしたパイプラインの上市を早期に達成すること、ならびにEIP事業をより成長させることで、株主の皆様に還元して参りたいと思っております。また、2011年３月期は上場再審査の最終期限ですので、本件につきましてはこれまでに増して注力して参ります。

Q　第８期の研究開発の進捗状況は？

A　当期は、PC-SOD吸入製剤の研究に助成を得たことで研究開発が大きく進展しました。現在はPC-SODの開発を最優先で進めておりますが、私が基礎研究を進めているNSAIDやナノPGE１等についても本格的な開発に着手したいと考えております。
また、設立以来当社と強い協力関係にある北京泰徳製薬にAS-013をライセンスアウトしました。既に同社で開発が進んでいるPC-SODとともに早期に中国での上市を実現すべく支援して参ります。

取締役会長　水島　　徹

株主各位におかれましてはこうした当社の活動をご理解いただき、引き続き厚くご指導・ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

Q　最も注力しているパイプラインは？

A　特発性肺線維症を対象疾患とするPC-SOD吸入製剤をメインテーマとしております。第９期までがNEDOの助成期間ですので、その間に研究を進め、早期にライセンスアウトを実現したいと考えております。また、このほど希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）への指定が了承され、難病である同疾患の治療薬が待ち望まれていることを実感しております。さらに、世界で１兆円超の市場規模をもつCOPD（慢性閉塞性肺疾患）に対する薬理効果も認められております。COPDも決定的な治療薬がないため、学会等においてPC-SODに対する高い期待が寄せられており、こうした市場性の高い適応拡大も視野に入れながら研究開発の推進に尽力いたしております。

Q　創薬事業における新たな展開は？

A　ドラッグリプロファイリングという取り組みを推進しております。海外では盛んなのですが、既存の医薬品が想定とは全く異なる疾患に対して優れた薬効を示した結果、製品化にまで至った事例が数多く存在しており、こうしたケースを専門に扱い、既存医薬の適応拡大の観点から新たな医薬品を生み出そうとする手法です。既存品を用いるため人体への悪影響が少なく短期間に低コストで開発が可能です。日本で最も早くこの分野に着目した企業として大きな成果を上げたいと考えております。

PC-SODを主軸としたパイプラインの研究開発の推進によって安全で画期的な新薬の創製を実現して参ります。

創 薬 事 業

当期においてPC-SOD吸入製剤の研究がNEDO助成事業として採択され、研究開発が大きく進展しました。またAS-013の北京泰徳製薬へのライセンスアウト、ステルス型ナノ粒子の旭化成ファーマ㈱との共同研究開発を実現しました。

創薬パイプラインの開発状況

PC-SOD吸入製剤

◆NEDO助成事業に採択され最優先テーマとして研究開発を推進
◆2011年３月期にフェーズⅠ実施及びフェーズⅡａの準備へ
◆PC-SOD注射製剤も吸入製剤と並行してライセンス活動を行う

その他の製剤

◆他のパイプラインについても助成金の獲得を目指す
◆旭化成ファーマ㈱とステルス型ナノ粒子の共同研究の実施
◆AS-013を導出した北京泰徳製薬への技術支援を行う

製剤名	2010/３	2011/３	2012/３
PC-SOD　（吸入）【特発性肺線維症】	基礎研究	非臨床試験 ～	臨床試験
NSAID【関節リウマチ】	基礎研究 ～		非臨床試験
ナノPGE１【間欠性跛行】	基礎研究 ～		非臨床試験

ＥＩＰ 事 業

上半期に本格展開の準備を行い、７月のインターフェックスジャパンへの出展を契機に多くの引き合いを得て受注が伸び、下半期は順調に推移しました。また、商社との提携等により、一層の認知拡大と販路開拓が進みました。

EIP事業における営業展開

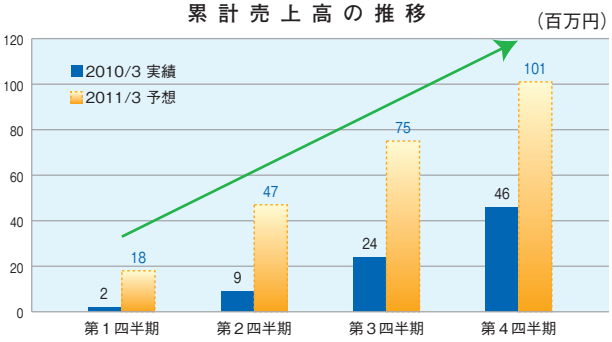
受注の拡大と顧客開拓

◆リピート案件の確保と顧客間の横展開により受注拡大を図る
◆試作・試験導入による引き合いを深耕し新規案件獲得を図る
◆新製品の開発による商材ラインナップの強化を図る

EIP製品の売上増大と多分野への進出

◆収益性の高いEIP製品の売上増により業績伸長を目指す
◆スポーツや工業など多分野での製品化を目指す
◆蓄積された実験データを体系化し、営業ツールの充実を図る

累 計 売 上 高 の 推 移



2011年３月期の連結業績予想

- ✓ 創薬事業で29百万円、EIP事業で101百万円の売上を見込む
- ✓ 販売費及び一般管理費に641百万円の計上を見込む
- ✓ PC-SOD吸入製剤の開発進展に伴い研究開発の増加を見込む
- ✓ NEDO助成金として170百万円程度の営業外収益を見込む
- ✓ 北京泰徳製薬の資本政策に基づく配当性向変動により、受取配当金減少の可能性を見込む

（百万円）

	第２四半期累計予想	通期予想
売上高	69	130
営業損失	431	602
経常損失	210	208
当期（四半期）純損失	210	209

〔連結貸借対照表（要旨）〕

（単位：千円）

科　目	第７期 2009.３.31現在	第８期 2010.３.31現在
資産の部		
流動資産	803,030	754,638
固定資産	738,153	606,707
資産合計	1,541,184	1,361,345
負債の部		
流動負債	263,303	40,054
固定負債	14,993	10,740
負債合計	278,297	50,795
純資産の部		
株主資本	1,262,887	1,310,550
純資産合計	1,262,887	1,310,550
負債純資産合計	1,541,184	1,361,345

〔連結損益計算書（要旨）〕

（単位：千円）

科　目	第７期 2008.４.１～2009.３.31	第８期 2009.４.１～2010.３.31
売上高	1,261,015	104,562
売上総利益	329,134	47,631
研究開発費	554,223	262,669
その他の販売費及び一般管理費	682,569	285,417
営業損失（△）	△907,658	△500,455
営業外収益	224,999	514,219
営業外費用	26,334	―
経常利益又は経常損失（△）	△708,992	13,763
特別利益	607,435	44,029
特別損失	5,999	5,738
当期純利益又は当期純損失（△）	△14,084	47,663

〔連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）〕

（単位：千円）

科　目	第７期 2008.４.１～2009.３.31	第８期 2009.４.１～2010.３.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	△359,318	△231,191
投資活動によるキャッシュ・フロー	540,010	151,185
財務活動によるキャッシュ・フロー	55,000	―
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	235,691	△80,005
現金及び現金同等物の期首残高	411,360	647,052
現金及び現金同等物の期末残高	647,052	567,047

株主メモ

事業年度	毎年４月１日から翌年３月31日まで
定時株主総会	毎年６月
期末配当金受領株主確定日	３月31日
中間配当金受領株主確定日	９月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 ＜お問合せ＞ 0120-232-711 ＜各種手続用紙のご請求＞ 東京　0120-244-479 大阪　0120-684-479
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社　全国各支店 野村証券株式会社　全国本支店
上場証券取引所	東京証券取引所 マザーズ市場（証券コード 4566）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL　http://www.ltt.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

当社ホームページでは、事業報告書ではお伝えできない、財務情報や事業内容など、様々な情報を開示しています。是非ご覧になって下さい。

http://www.ltt.co.jp/

VEGETABLE OIL INK

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-002499
© 1996 Forest Stewardship Council